

## 2024.01.18. 木曜礼拝「福音を守ること」Leitu 牧師

主よ、ありがとうございます。私たちは自分の力で物事を進めようとすることが多いですが、それを乗り越えさせてくださるのはあなたです。ですから、主よ、あなたを見、日々より暗くなりつつある世において、私たちに御力を与えてくださいますように。主よ、今日、立ち上がり、福音を守ります。主よ、今晚の御言葉を感謝します。今晚の御言葉を伝えるレイトゥ牧師を導いてください。主よ、御言葉を受け取れますように。私たちの御霊を静め、思いを研ぎ澄ませてください。御言葉で共に過ごす時間をありがとうございます。イエスの御名によって、アーメン。アローハ！ 会衆：アローハ！ ご着席ください。この礼拝堂（聖域）におられる皆さん、オンラインの皆さん、カルバリーチャペル・カネオへへ、木曜日の夜の聖書の学びへようこそ。J.D.牧師は、今夜、彼の代講を私に依頼しました。J.D.牧師は本当に妻のケリーに愛を注ぎ慰め、支えるため一緒にいたいのです。今度の日曜日、両礼拝共「聖書預言・アップデート」と「ユダの手紙」の節ごとの学びのために、J.D.牧師はここに立ちますまた、来週の木曜日には、J.D.牧師が「エゼキエル書 38 章」を取り上げ、聖書の学びを教えることができるようにお祈りください。私は今夜の（エゼキエル書）38 章の学びを本当に楽しみにしていました。J.D.牧師はまた、この礼拝堂におられる皆さん、オンラインの皆さんに、個人的にお礼を言いたいと言っていました。J.D.牧師と彼の家族への愛とサポート、今、癌治療を受けている妻のケリー、そして彼と彼の家族のために祈ってくれている皆さんに。アーメン。日曜日には2つの礼拝があります。8時30分と10時45分で、8時30分開始の第一礼拝では「聖書預言・アップデート」を、10時45分開始の第二礼拝では、新約聖書を通しての学びです。週半ばの学びは、木曜日の夜7時からで、現在、旧約聖書「エゼキエル書」を学んでいます。毎月第一火曜日は「祈り会」で、私たちはここ礼拝堂に集まります。是非いらして、一緒に祈りましょう。今夜は、「ガラテヤ人への手紙」の続きです。私はこのメッセージに『福音を守ること』というタイトルをつけました。2週間前、私たちは1章17節を終えました。使徒パウロが1章11節で、はじめから強調するのは、「私が宣べ伝えた福音は、人間によるものではありません。」（ガラテヤ 1：11参照）「私はそれを人間から受けたのではなく、また教えられたのでもありません。」（ガラテヤ 1：12参照）先に進む前に、頭を下げ、祈りましょう。私たちの時間を祝福してくださるよう神にお願いしましょう。お父様、私たちは御座の御前に参ります。主よ、あなたの御言葉に感謝します。主よ、信仰によって救われるために、あなたの御子、イエスを送り、ローマの十字架につけて死なせるほどに、私たちを愛して下さったことに感謝します。主よ、ありがとうございます。あなたの聖霊が私たちと共におられ、私たちを導き、教えてください。あなたは実際に私たちのうちにおられ、私たちを守られます。私たちは新しい所有者の下にあり、あなたのものです。主よ、いつの日か、私たちは天の家にあなたと一緒に帰ります。それが、あなたの子どもとして、あなたが召された者として、私たちに与えられた約束です。ですから、あなたの御前に来ます。主よ、今夜教えられることを感謝します。主よ、それはあなたの御言葉です。イエスの御名によって祈ります。アーメン。

1章12節を振り返ります。パウロは言います。（福音は、）ただイエス・キリストの啓示によって受けたのです。（ガラテヤ 1：12参照）1章の13節で、パウロは改宗する前の自分について述べます。自分がどのように神の教会を迫害したのか。パウロはその場において、ステパノの殉教を承認しました。彼は、キリスト教徒がどこにいても捕まえました。15節と16節で、パウロはこう書きます。パウロが生まれる前から、主は彼に福音を宣べ伝えるようにと召されていました。ただ、それが異邦人に対するものだと知りませんでした。17節で、パウロは使徒たちに相談せず、アラビアに行きます。パウロが才能ある教師であったのを思い出します。当時イスラエルで最も優秀な人物の一人でした。彼は生涯をモーセ五書の研究に費やしました。当時、最も聡明なパリサイ派の一人でした。繰り返しますが、パウロは、ガマリエルに教えを受けました。ガマリエルは、当時最も祝福された教師、最も祝福されたラビの一人でした。神がパウロを選ばれ、準備された証拠であり、パウロが新約聖書の3分の1を書きました。神はパウロにこれらの聖書の真理を啓示されました。神がこれらの真理を啓示される者は、これらの真理を理解する能力を持ち、他の人に説明できる人に限られます。パウロがアラビアに行った目的は書かれていません。聖霊の導きによるものだったとわかります。神がパウロを導かれ、彼はそこに行くと信じます。神はパウロに異邦人への召しを明らかにされます。ユダヤ人であったパウロは、世界中の誰であれ、ユダヤ人でない異邦人は、ふさわしくないと考えていました。ユダヤ人は異邦人とは何の関係もありませんでした。彼らは互いに距離を置いていました。神はパウロに福音を伝えるよう召されました。パウロはユダヤ人ですから、これは簡単なことではありません。しかし、パウロは神の驚くべき恵みを受けました。彼は救われ、イエスへの愛と熱意を持つようになりました。異邦人のところへ行くという主の召しに不従順な心はありませんでした。パウロは、パリサイ人としてこの喜びをそれまで知りませんでした。彼は今、信者であり、主の喜びが彼の人の柄や人格から滲み出ています。ユダヤ教にはたくさんの決まりや伝統があります。そういう決まり事で、まるで囚われの身のような感覚でした。彼はおそらく、自分が捕まえたクリスチャンたちよりも獄中でより多くのことを感じました。こうして彼は、福音によって宗教の束縛から解放されました。今、イエス・キリストによって、パウロは新

しい人となり、新しく造られました。彼と神との関係は、決まりではなく、愛に満ちています。彼は神を知っていましたが、神のご計画を知りませんでした。私たちは誰も神のご計画を知りません。主は彼に驚くべき恵みを啓示され、神が異邦人を救いに召され、パウロが適応する必要があるのは確かです。イスラエルが国家として、こんにちでさえも受け入れていないものです。パウロがどのくらいアラビアに滞在したかは書かれていませんが、主とともに過ごした時間は有意義でした。おそらく巻物を持って行ったでしょう。おそらくメモも取ったでしょう。パウロは祈り、主を求め、神に御心を求めました。その結果が「福音、良い知らせ」だったと信じます。福音/良い知らせは、こんにちも私たちとともにあり、この世で毎日毎日、多くの人々を救っています。その後、ダマスコに戻りました。「ガラテヤ人への手紙 1 章 18 節」を、取り上げます。

#### ーガラテヤ 1 : 18ー

**それから三年後に、私はケファ（ペテロ）を訪ねてエルサレムに上り、彼のもとに十五日間滞在しました。**

#### ーガラテヤ 1 : 19ー

しかし、主の兄弟ヤコブは別として、ほかの使徒たちにはだれにも会いませんでした。アラビアで過ごした後、パウロはダマスコに戻り 3 年以上過ごした後、エルサレムに行きます。パウロにとって不安な時となります。パウロは、エルサレムで、特に指導者たちであるパリサイ人やサドカイ人にはよく知られています。パリサイ派とサドカイ派、ラビたち、つまり彼のかつての兄弟たちは、快く思っていません。パウロは、ユダヤ教の裏切り者となりました。彼はキリスト教徒になったからです。ダマスコでも、彼らはパウロを殺そうとしました。高い馬からパウロが落ちた時のことを思い出します。ダマスコに行く途中、目が見えなくなりました。しかし、彼の目から鱗が落ちました。エルサレムのユダヤ人指導者たちは、ダマスコの指導者と同じことをしたかったのです。ここでもパウロは主に導かれ、ペテロに会いに行きますが、そこにはクリスチャンたちもいました。彼らはどう反応するのでしょうか？ かつては教会を迫害した者です。ステパノの殉教がどうであったかを覚えている人たちがいました。パウロが、ステパノの石打ちの刑を許可しました。パウロが自分たちの拠点を脅かしたのを覚えている人たちです。パウロは、イエスの道に従う者たちを、歩む者たちを探して、家々を回り、信者を逮捕し、投獄し、殴り、殺しました。パウロがやってきて、大きな注目を集めました。エルサレムのすべての人にとって不安な時でした。18 節と 19 節の箇所を見ると、パウロがエルサレムに戻る旅について、「ルカの福音書」でも見られます。パウロの改宗後、初の帰郷です。「使徒の働き」9 章、26 節から 30 節です。パウロはエルサレムに来て、弟子たちに加わろうとしましたが、皆彼を恐れ、彼が弟子であることを信じませんでした。バルナバが、パウロが道の途中で主を見たこと、主がパウロに語られたこと、イエスの御名によってダマスコで大胆に宣教したことを彼らに告げました。ですから、パウロは、エルサレムで彼らと一緒にいて、出入りしていました。パウロは、ペテロから福音について指示を受けるためにペテロのところに行ったわけではありません。パウロは、アラビアで神の啓示をすでに把握していました。ペテロと神の御言葉を分かち合うような時間でした。ペテロはパウロに、イエスがどのようなお方であったかを分かち合いました。ペテロが 3 年間イエスと一緒にいたのを私たちは知っています。パウロにとって、イエスとともに過ごした誰かから、イエスを知ることは、祝福された時であったことでしょう。パウロは、キリストにある新しい人生について語り、彼自身の過去の人生についても語ったに違いありません。ステパノの殉教が彼らの会話に出たかもしれません。ある時点で、彼らは互いに打ち解けました。互いを愛し尊敬する兄弟として、神の事柄への愛と献身的な心を持つ兄弟として。19 節では、私たちはパウロと、主の兄弟であるヤコブを見ます。使徒の一人、ヨハネの兄弟のヤコブ、ヘロデが殺したヨハネの兄弟、ゼバダイのヤコブではありません。「使徒の働き」12 章に書かれています。これは、イエスの異父兄弟ヤコブです。キリストの教会の指導者であるヤコブです。「ヤコブの手紙」を書いたヤコブです。当初、ヤコブは信者ではなく、異父兄弟のイエス・キリストを恥じていました。イエスは、ヤコブが理解できないような独特な主張をされました。が、今やヤコブは従う者です。ヤコブはエルサレムの教会の指導者です。イエスの兄弟ヤコブ。「ガラテヤ人への手紙 1 章 20 節」、

#### ーガラテヤ 1 : 20ー

**神の御前で言いますが、私があなたがたに書いていることに偽りはありません。**

ユダヤ主義者たちは、パウロの信用を失墜させようとしてしました。彼の人格だけでなく、教えも。彼の高潔さは天秤にかけられていました。イエスに立ち返ったガラテヤの人々は背を向けてしまい、偽りの福音を伝える偽教師たちに耳を傾けていました。福音は、パウロを通して神からもたらされました。それはイエス・キリストによって啓示されました。パウロは、たとえ殉教しようとも、それを守ります。何であらうと、人は神の働きをこの地上で行おうとします。常に神には、神のご方法があられます。アーメン。この福音はこんにちも私たちとともにあります。先ほども述べたように、人々は救われています。2000 年後、パウロが真理を説いていたことを、ここにいる私たち、オンラインの人、イエスに従う皆さんは証することができます。

「ガラテヤ人への手紙」1 章 21 節から 24 節、

#### ーガラテヤ 1 : 21ー

それから、私はシリアおよびキリキアの地方に行きました。

ーガラテヤ 1 : 2 1 ー

それから、私はシリアおよびキリキアの地方に行きました。

ーガラテヤ 1 : 2 2 ー

それで私は、キリストにあるユダヤの諸教会には顔を知られることはありませんでした。

ーガラテヤ 1 : 2 3 ー

ただ、人々は、「以前私たちに迫害した者が、そのとき滅ぼそうとした信仰を今は宣べ伝えている」と聞いて、

ーガラテヤ 1 : 2 4 ー

私のことで神をあがめていました。

それが、21 節にある、パウロが故郷のタルソスに帰る理由です。「使徒の働き 9 章 26 節」でそれがわかります。パウロが家族や友人たちにも福音を伝えたと確信します。パウロは、ガマリエルの教えのもと、両親の誇りである高位の役職のために育てられました。ユダヤ教で、パウロは頂点に立ち、大祭司になれたかもしれませんが、彼がクリスチャンとして帰ってきたときの衝撃を想像してみてください。彼の両親がどう感じたかはわかりません。確かにユダヤ人社会からの圧力はありました。ユダヤ人の考え、ユダヤ教は唯一の宗教でした。パウロはそれを捨てました。神を見つけるためだけに。アーメン。(会衆：アーメン！)

22 節から 24 節は、パウロの評判が広がっていたことを語ります。教会のクリスチャンたちはパウロを知りませんでした。パウロのうわさは喜びをもたらしました。パウロの回心の話は広まり、教会は神を讃えました。では、「ガラテヤ人への手紙」2 章に進みます。パウロはすでにペテロと会って話をしましたが、パウロの評判は疑われていました。ユダヤ主義者たちは、またしてもパウロを偽教師だと非難しました。「ガラテヤ人への手紙」2 章 1 節が語ります。

ーガラテヤ 2 : 1 ー

それから十四年たって、私はバルナバと一緒に、テトスも連れて、再びエルサレムに上りました。

十四年たって、パウロはエルサレムにバルナバとテトスを連れて戻りました。これはパウロが回心してから 2 度目のエルサレムへの旅であり、神が導かれました。テトスは異邦人のギリシャ人で、パウロが主に導きました。パウロがこのエルサレムへの旅でテトスを連れて帰ったのには、神の目的があらわれました。「ガラテヤ人への手紙」2 章 2 節、

ーガラテヤ 2 : 2 ー

私は啓示によって上ったのです。そして、私が今走っていること、また今まで走ってきたことが無駄にならなように、異邦人の間で私が伝えている福音を人々に示しました。おもだった人たちには個人的にそうしました。

New Living Translation (NLT 聖書) ではこう書かれています。(新共同訳から参照)

「エルサレムに上ったのは、啓示によるものでした。わたしは、自分が異邦人に宣べ伝えている福音について、人々に、とりわけ、おもだった人たちには個人的に話して、自分は無駄に走っているのではないか、あるいは走ったのではないかと意見を求めました。」(ガラテヤ 2 : 2 新共同訳)

主はパウロに、福音に関する重要な真理を教えられました。パウロは今、こうした偽りの告発から身を守るために、まず教会の指導者たちと個人的に面会しました。パウロはこのユダヤ主義者たちと争うことになり、彼らは、教会に参加していましたが、自分たちの方法を望みました。教会は、パリサイ派で構成され、本当に宗教的で律法主義的でした。前にも言いましたが、律法主義というのは、神が意図されたことではない人間が作った一連の決まりを意味します。それが律法学者がすることで、神が私たちが守るよう意図されていない決まりを作り上げます。彼らは律法の伝統に従いたかったのです。彼らは、異邦人が救われることを信じず、イエスを信じ、モーセの律法を守るのなら、割礼を受けなければ救われないと信じた。パウロは、神がお守りになりたいことを守りたかったのです。パウロはペテロ、ヨハネ、ヤコブと会いました。パウロは、神から与えられた福音を彼らに明らかにしましたが、神はすでにこの指導者たちの心に働いておられました。パウロは彼らに真理を示しました。聖霊が合意をもたらしました。「ガラテヤ人への手紙」

2 章 3 節、

ーガラテヤ 2 : 3 ー

しかし、私と一緒にいたテトスさえ、ギリシア人であったのに、割礼を強いられませんでした。

ですから、教会の指導者たちと個人的に会うことは成功しました。パウロは福音を巧みに伝えることができました。テトスは、主によって戦略的にエルサレムに連れてこられ、テトスは割礼を受けていない異邦人で、イエス・キリストを信じていました。ユダヤ人は割礼を受けた者だけが救われると信じていました。包皮を切り落とされた者たちです。テトスの包皮はそのままでした。しかし、テトスには、新生クリスチャン、新生した信者のすべての特質がありました。彼は、クリスチャンのように歩き、話し、振る舞いました。彼の

回心を否定することはできませんでした。彼は、パウロと神の福音に同意しました。ですから、教会はテトスに割礼を要求しませんでした。テトスは、アーメンと言いました。会衆：アーメン！ — (笑) — その時、福音の真理は前進していました。「ガラテヤ人への手紙」 2章4節から5節、

#### —ガラテヤ 2：4—

忍び込んだ偽兄弟たちがいたのに、強いられるということはありませんでした。彼らは私たちが奴隷にしようとして、キリスト・イエスにあって私たちが持っている自由を狙って、忍び込んでいたのです。

#### —ガラテヤ 2：5—

私たちは、一時も彼らに譲歩したり屈服したりすることはありませんでした。それは、福音の真理があなたをたのみで保たれるためでした。

偽の兄弟たちが問題を起すために入り込みました。彼らは本物を装った偽物でした。彼らは、信者を律法、割礼などの束縛に陥れようとしていました。信者にある自由を奪おうとしました。パウロはこのような誤った悪人たちに屈しませんでした。パウロが経験したパリサイ人の人生そのものが、神の御霊によって新しく生まれ変わったのです。パウロは、神が福音の作者であられるのを知っていました。神が導いてくださるなら、隔てるものは何もありません。神は、常に異邦人のためのご計画があらわれました。アブラハムもその一人でした。「ガラテヤ人への手紙」 2章6節、

#### —ガラテヤ 2：6—

そして、おもだった人たちからは—彼らがどれほどの者であっても、私にとって問題ではありません。神は人を分け隔てなさいません—そのおもだった人たちは、私に対して何もつけ加えはしませんでした。

ヤコブとペテロは、異邦人がどのように救われているかについて語りました。ペテロは、異邦人とのエピソードを分かち合いました。パウロは、彼らが共有したことに何も付け加えることはないと言いました。パウロは知っていることすべては、すでに主から受け取っていました。パウロは使徒たちを見下していたわけではありません。パウロは、彼が肉にあってだった頃のパウロを尊敬していないユダヤ主義のユダヤ人に答えました。偽教師たちは、自分たちが神の側だと思っていました。実際、彼らは不義にも、パウロの名誉を傷つけていました。「ガラテヤ人への手紙」 2章7節から9節、

#### —ガラテヤ 2：7—

それどころか、ペテロが割礼を受けている者への福音を委ねられているように、私は割礼を受けていない者への福音を委ねられていることを理解してくれました。

#### —ガラテヤ 2：8—

ペテロに働きかけて、割礼を受けている者への使徒とされた方が、私にも働きかけて、異邦人への使徒としてくださったからでした。

#### —ガラテヤ 2：9—

そして、私に与えられたこの恵みを認め、柱として重んじられているヤコブとケファとヨハネが、私とバルナバに、交わりのしるしとして右手を差し出しました。それは、私たちが異邦人のところに行き、彼らが割礼を受けている人々のところに行くためでした。

割礼のユダヤ人。無割礼の異邦人。7節から9節で、教会の指導者たちはパウロに会って同意し、神がペテロを通して明らかに働かれたように、神の御業がパウロを通して上手く働きました。人々は、神がこの二人を通して働かれ、この人たちが握手するのを見ました。「ガラテヤ人への手紙」 2章10節、

#### —ガラテヤ 2：10—

ただ、私たちが貧しい人たちのことを心に留めるようにとのことでしたが、そのことなら私も大いに努めてきました。

さて、パウロのエルサレム訪問を読みましたね。2回目の訪問は、教会との極めて重要な会合でした。真の福音メッセージは危機に瀕していました。「使徒の働き 15章」での同じ歴史的な出来事を共有したいと思います。パウロと同じ出会いの詳細な記述で、「ガラテヤ人への手紙」 2章にあるエルサレム訪問と同じです。そこには、驚くべき細部に渡る神の御手の御働きが分かります。長いですが、あなたがこの箇所によって祝福されることを祈ります。「使徒の働き」 15章1節、聖書をお開きになって、「使徒の働き」 15章1節をご覧ください。New Living Translation (NLT)を読みます。もっと簡単に読めますので。(新共同訳から参照)

パウロとバルナバがシリアのアンティオキアにいる時。

#### —使徒 15：1—

ある人々がユダヤから下って来て、「モーセの慣習に従って割礼を受けなければ、あなたがたは救われない」と兄弟たちに教えていた。

このユダヤ主義者たちは本当に偽教師です。彼らはイエスを信じていましたが、信仰だけでは十分ではないと教えました。彼らは、信者がユダヤ人になり、ユダヤ主義に従って欲しかったのです。彼らの目的は、福音のメッセージを曲解することでした。2節、

一使徒 15 : 2 一

それで、パウロやバルナバとその人たちとの間に激しい意見の対立と論争が生じた。この件について使徒や長老たちと協議するために、パウロとバルナバ、そのほか数名の者がエルサレムへ上ることに決まった。

一使徒 15 : 3 一

さて、一行は教会の人々から送り出されて、(パウロの2度目のエルサレム訪問です) フェニキアとサマリア地方を通り、道すがら、兄弟たちに異邦人が改宗した次第を詳しく伝え、皆を大いに喜ばせた。

一使徒 15 : 4 一

エルサレムに到着すると、彼らは教会の人々、使徒たち、長老たちに歓迎され、神が自分たちと共にいて行われたことを、ことごとく報告した。

一使徒 15 : 5 一

ところが、ファリサイ派から信者になった人が数名立って、「異邦人にも割礼を受けさせて、モーセの律法を守るように命じるべきだ」と言った。

ユダヤ主義者が福音に抗議するために再び現れました。異邦人たちはこの決定を心待ちにしていたのです。

彼らは救われたかったのですが、割礼は受けませんでした。

一使徒 15 : 6 一

そこで使徒たちと長老たちは、この問題について協議するために集まった。

一使徒 15 : 7 一

議論を重ねた後、ペトロが立って彼らに言った。「兄弟たち、ご存じのとおり、ずっと以前に、神はあなたがたの間でわたしをお選びになりました。それは、異邦人が、わたしの口から福音の言葉を聞いて信じるようになるためです。

一使徒 15 : 8 一

人の心をお見通しになる神は、わたしたちに与えてくださったように異邦人にも聖霊を与えて、彼らをも受け入れられたことを証明なさったのです。

一使徒 15 : 9 一

また、彼らの心を信仰によって清め、わたしたちと彼らとの間に何の差別をもなさいませんでした。今夜、またペテロが異邦人信者と出会ったときのことを分かち合います。

一使徒 15 : 10 一

それなのに、なぜ今あなたがたは、先祖もわたしたちも負いきれなかった軛を、あの弟子たちの首に懸けて、神を試みようとするのですか。

ペテロは、イスラエルの歴史を通してこう言います。「誰もユダヤ教の律法を守ることができませんでした。誰も十戒を守ることができませんでした。それは重荷でした。」自由ではありませんでした。重荷が一国に、国全体に及びました。トーラー(モーセ五書)だけでも、613の律法がありました。ミシュナには、他に613の律法があります。イエス・キリストの福音がついに自由をもたらします。ペテロは11節でこう言います。

一使徒 15 : 11 一

わたしたちは、主イエスの恵みによって救われると信じているのですが、これは、彼ら異邦人も同じことです。」

一使徒 15 : 12 一

すると全会衆は静かになり、バルナバとパウロが、自分たちを通して神が異邦人の間で行われた、あらゆるしるしと不思議な業について話すのを聞いていた。

一使徒 15 : 13 一

二人が話を終えると、ヤコブが答えた。「兄弟たち、聞いてください。

再び、イエスの弟で、教会の指導者であるヤコブです。ヤコブはペテロの話を確認します。

一使徒 15 : 14 一

神が初めに心を配られ、異邦人の中から御自分の名を信じる民を選び出そうとなされた次第については、シメオンが話してくれました。

一使徒 15 : 15 一

預言者たちの言ったことも、これと一致しています。次のように書いてあるとおりです。

さらにヤコブは、「アモス書」9章を引用します。ヤコブは16節と17節を読みます。これは、異邦人が神の御心にあったことを予告している旧約聖書です。16節、

一使徒 15 : 16 一

『その後、わたしは戻って来て、倒れたダビデの幕屋を建て直す。その破壊された所を建て直して、元どおりにする。

一使徒 15 : 17 一

それは、人々のうちの残った者や、わたしの名で呼ばれる異邦人が皆、主を求めるようになるためだ。」  
ですから、ヤコブは、神が常に異邦人に対するご計画をご用意されていたことを確かにします。ヤコブはそれを聖書から確かにします。ユダヤ人は、神の御言葉を信頼するので、これは極めて重要なことです。ヤコブは18節でこう続けます。

一使徒 15 : 18 ー

昔から知らされていたことを行う主は、こう言われる。』

一使徒 15 : 19 ー

それで、わたしはこう判断します。神に立ち帰る異邦人を悩ませてはなりません。

一使徒 15 : 20 ー

ただ、偶像に供えて汚れた肉と、みだらな行いと、絞め殺した動物の肉と、血とを避けるようにと、手紙を書くべきです。

一使徒 15 : 21 ー

モーセの律法は、昔からどの町にも告げ知らせる人がいて、安息日ごとに会堂で読まれているからです。」

ですから、裁きが下され、神のご計画は前進します。義の者とは、イエス・キリストを信じる信仰によって救われる者です。教会の指導者たちは異邦人の信者たちに手紙を書きます。至るところの異邦人信者たちは不安でした。彼らはこの結果を待っていました。その手紙は手渡しで届けられます。アンティオキアの教会です。22節、

一使徒 15 : 22 ー

そこで、使徒たちと長老たちは、教会全体と共に、自分たちの中から人を選んで、パウロやバルナバと一緒にアンティオキアに派遣することを決定した。選ばれたのは、バルサバと呼ばれるユダおよびシラスで、兄弟たちの中で指導的な立場にいた人たちである。

一使徒 15 : 23 ー

使徒たちは、次の手紙を彼らに託した。「使徒と長老たちが兄弟として、アンティオキアとシリア州とキリキア州に住む、異邦人の兄弟たちに挨拶いたします。

一使徒 15 : 24 ー

私たちは何も指示していないのに、私たちの中のある者たちが出て行って、いろいろなことを言っておなたがたを混乱させ、あなたがたの心を動揺させたと聞きました。

ユダヤ主義者は外出禁止。彼らは断ち切られました。アーメン。

一使徒 15 : 25 ー

そこで私たちは人を選び、私たちの愛するバルナバとパウロと一緒に、あなたがたのところに送ることを、全会一致で決めました。

一使徒 15 : 26 ー

私たちの主イエス・キリストの名のために、いのちを献げている、バルナバとパウロと一緒にです。

一使徒 15 : 27 ー

こういうわけで、私たちはユダとシラスを遣わします。彼らは口頭で同じことを伝えるでしょう。

一使徒 15 : 28 ー

聖霊と私たちは、次の必要なことのほかには、あなたがたに、それ以上のどんな重荷も負わせないことを決めました。

一使徒 15 : 29 ー

すなわち、偶像に供えたものと、血と、絞め殺したものと、淫らな行いを避けることです。これらを避けていれば、それで結構です。祝福を祈ります。」

手紙はこう締めくくられています。30節はこう語ります。

一使徒 15 : 30 ー

さて、一行は送り出されてアンティオキアに下り、教会の会衆を集めて手紙を手渡した。

一使徒 15 : 31 ー

人々はそれを読んで、その励ましのことばに喜んだ。

一使徒 15 : 32 ー

ユダとシラスは預言する者でもあったので、いろいろと話をして兄弟たちを励まし力づけ、

一使徒 15 : 33 ー

しばらくここに滞在した後、兄弟たちから送別の挨拶を受けて見送られ、自分たちを派遣した人々のところへ帰って行った。

一使徒 15 : 35 ー

しかし、パウロとバルナバはアンティオキアにとどまって教え、他の多くの人と一緒に主の言葉の福音を

告げ知らせた。

アンティオキアの教会は、異邦人であることに有頂天でした。彼らの良心は常に彼らに語り、「ローマ人への手紙 2 章」が語るように、神は存在され、私たちは神を知らないという言い訳はできないと教えます。今や、ユダヤ人と同じように、彼らは救われ、救いを受けることができます。常に、ユダヤ人だけが救われると考えていました。この偽教師たち、ユダヤ主義者たちが、彼らを混乱させました。彼らはエルサレムから何と良い知らせを受けたことでしょうか！ 本当に、主からの知らせでした。彼らはすでに救いの福音を受けていて、生まれ変わった。彼らはただ確認したかったのです。異邦人の信者たちにとって、これは素晴らしい知らせでした。彼らは喜びました。誰も彼らの救いを奪うことはできません。彼らの人生は日々、栄光から栄光へと変化します。彼らは天国を確信していました。割礼に耐える必要もありません。ユダヤ人になる必要もなく、ユダヤ教の終わりなき規則に従う必要はありませんでした。彼らがせねばならなかった全ては、信仰によって、イエス・キリストを信じるだけでした。私はただ、、、ごめんなさい、、、イエスを受け入れた時のことを思い出しています。主が十字架で捧げられた犠牲は、私たちの罪をすべて覆うのに十分でした。彼らは、主の流された血潮によって、義とされました。イエスは、私たち罪の身代わりでられました。イエスは、私たち身代わりとなられ、私たち罪を背負われました。ですから私たちは、福音が今も私たちとともにあるように、こんにちのクリスチャンとして、「使徒の働き 15 章」からもたらされたことを感謝します。人々はまだ救われています。先ほども言いましたが、私はペテロのあの出会いを分かち合いたいです。ペテロとコルネリウスの出会いを共有したいのです。彼は異邦人で、ローマ兵です。「使徒の働き 15 章」を読んだばかりですが、この記述は「使徒の働き 10 章」にあるので、「使徒の働き 10 章」に戻ります。エルサレム教会の指導者たちがパウロに同意し、神のご計画が常に実現するようになった方法と見事に結びつき、恵みの福音は先に前進します。また少し長いですが、再び、あなたが祝福されるのがわかります。(使徒の働き) 10 章 1 節、

一使徒 10 : 1 ー

さて、カイサリアにコルネリウスという名の人がいた。イタリア隊という部隊の百人隊長であった。

彼はローマの兵士でした。

一使徒 10 : 2 ー

彼は敬虔な人で、家族全員とともに神を恐れ、民に多くの施しをし、いつも神に祈りをささげていた。

彼は、偶像、ローマの偶像ではなく、イスラエルの神に祈りました。

一使徒 10 : 3 ー

ある日の午後三時ごろ、彼(コルネリウス)は幻の中で、はっきりと神の御使いを見た。その御使いは彼のところに来て、「コルネリウス」と呼びかけた。

一使徒 10 : 4 ー

彼は御使いを見つめていたが、恐ろしくなって言った。「主よ、何でしょうか。」すると御使いは言った。「あなたの祈りと施しは神の御前に上って、覚えられています。」

一使徒 10 : 5 ー

さあ今、ヤッファに人を遣わして、ペテロと呼ばれているシモンという人を招きなさい。

一使徒 10 : 6 ー

その人は、シモンという皮なめし職人のところに泊まっています。その家は海辺にあります。」

一使徒 10 : 7 ー

御使いが彼にこう語って立ち去ると、コルネリウスはしもべたちのうち二人と、彼の側近の部下のうち敬虔な兵士一人を呼び、

一使徒 10 : 8 ー

すべてのことを説明して、彼らをヤッファに遣わした。夢とは、眠っている時のこと。幻とは、目覚めている時のこと。コルネリウスは幻の中で、主の御使いを見ました。

一使徒 10 : 9 ー

翌日、この人たちが旅を続けて、町の近くまで来たころ、ペテロは祈るために屋上に上った。昼の十二時ごろであった。

一使徒 10 : 10 ー

彼は空腹を覚え、何か食べたいと思った。ところが、人々が食事の用意をしているうちに、彼は夢心地になった。

ペテロは幻を見ました。

一使徒 10 : 11 ー

すると天が開け、大きな敷布のような入れ物が、四隅をつるされて地上に降りて来るのが見えた。

一使徒 10 : 12 ー

その中には、あらゆる四つ足の動物、地を這うもの、空の鳥がいた。

一使徒 10 : 13 ー

そして彼に、「ペテロよ、立ち上がり、屠って食べなさい」という声が聞こえた。

一使徒 10 : 14 ー

しかし、ペテロは言った。「主よ、そんなことはできません。私はまだ一度も、きよくない物や汚れた物を食べたことはありません。」

一使徒 10 : 15 ー

すると、もう一度、声が聞こえた。「神がきよめた物を、あなたがきよくないと言ってはならない。」

一使徒 10 : 16 ー

このようなことが三回あってから、すぐにその入れ物は天に引き上げられた。

ユダヤ人は、周りにあるどんな食べ物でも食べていたわけではなく、ほとんどの場合、厳格な食事法を守っていました。しかし、神はペテロを準備し、異邦人が神の救いの一部であるという神のご計画をペテロに明らかにされました。福音は、ユダヤ人のためだけでなく、全世界のためでした。

一使徒 10 : 17 ー

ペテロが、今見た幻はいったいどういうことだろうか、と一人で思い惑っていると、なんと、コルネリウスから遣わされた人たちがシモンの家を探し当てて、その門口に立ち、

一使徒 10 : 18 ー

声をかけて、「ペテロと呼ばれているシモンはここに泊まっていますか」と尋ねていた。

一使徒 10 : 19 ー

ペテロは幻について思い巡らしていたが、御霊が彼に言われた。「見なさい。三人の人があなたを訪ねて来ています。」

一使徒 10 : 20 ー

さあ、下に降りて行き、ためらわずに彼らと一緒に行きなさい。わたしが彼らを遣わしたのです。」

一使徒 10 : 21 ー

そこでペテロは、その人たちのところに降りて行って、言った。「あなたがたが探しているのは、この私です。」

どんなご用でおいでになったのですか。」

一使徒 10 : 22 ー

すると、彼らは言った。「正しい人で、神を恐れ、ユダヤの民全体に評判が良い百人隊長コルネリウスが、あなたを自分の家に招いて、あなたから話を聞くようにと、聖なる御使いから示されました。」

神の御霊が働いておられます。ペテロは全く分かりません。異邦人たちはペテロを招いています。異邦人の家に招いています。それは前代未聞です。で、23節、

一使徒 10 : 23 ー

それでペテロは、彼らを迎え入れて泊ませた。翌日、ペテロは立って、彼らと一緒に出かけた。ヤッファの兄弟たちも数人同行した。

一使徒 10 : 24 ー

そして次の日、ペテロはカイサリアに着いた。コルネリウスは、親族や親しい友人たちを呼び集めて、彼らを待っていた。

どうですか？ コルネリウスが家族を呼ぶのは、家族が救われてほしいからです。

一使徒 10 : 25 ー

ペテロが着くと、コルネリウスは迎えに出て、足もとにひれ伏して拝んだ。

神は働かれ、コルネリウスは家族や友人を呼びました。コルネリウスは、彼ら全員が救いを受けてほしいのです。ペテロは、彼の名誉のために、自分自身を高く上げません。ペテロはコルネリウスにこう言います。

「自分も人間です。立ち上がってください。私を礼拝する必要はありません。」

一使徒 10 : 26 ー

するとペテロは彼を起こして、「お立ちください。私も同じ人間です」と言った。

一使徒 10 : 27 ー

そして、コルネリウスとことばを交わしながら家に入り、多くの人が集まっているのを見て、

一使徒 10 : 28 ー

その人たちにこう言った。「ご存じのとおり、ユダヤ人には、外国人と交わったり、外国人を訪問したりすることは許されていません。ところが、神は私に、どんな人のことも、きよくない者であるとか汚れた者であるとか言ってはならないことを、示してくださいました。」

敷布の中のすべての動物、汚れた動物が入った、敷布の幻を思い出してください。(使徒の働き 10 : 11



～12参照)

一使徒 10 : 29 ー

それで、お招きを受けたとき、ためらうことなく来たのです。そこでお尋ねしますが、あなたがたは、どういふわけで私をお招きになったのですか。」

ペテロはまだ自分が呼ばれた理由がわかりません。

一使徒 10 : 30 ー

すると、コルネリウスが言った。「四日前のこの時刻に、私が家で午後三時の祈りをしていますと、なんと、輝いた衣を着た人が私の前に立って、

一使徒 10 : 31 ー

こう言いました。『コルネリウス。あなたの祈りは聞き入れられ、あなたの施しは神の前に覚えられています。

一使徒 10 : 32 ー

だから、ヤッファに人を送って、ペテロと呼ばれるシモンを招きなさい。この人は海辺にある、皮なめし職人のシモンの家に泊まっています。』

一使徒 10 : 33 ー

それで、私はすぐにあなたのところの人に人を送ったのです。ようこそおいでくださいました。今、私たちはみな、主があなたにお命じになったすべてのことを伺おうとして、神の御前に出ております。」

ペテロは、なぜ自分が呼び出されたのか、その理由がわかりませんでした。しかし、この時点でその理由に気づきました。ペテロはメモもないし、救いの ABC もありません。ー (笑) ー しかし、準備ができています。ペテロは自分が持つ希望への答えを用意しています。この時点で、ペテロはただ神を信じるだけです。コルネリウスと異邦人は福音をまさに聞こうとしています。

一使徒 10 : 34 ー

そこで、ペテロは口を開いてこう言った。「これで私は、はっきり分かりました。神はえこひいきをする方ではなく、

一使徒 10 : 35 ー

どこの国の人であっても、神を恐れ、正義を行う人は、神に受け入れられます。

一使徒 10 : 36 ー

神は、イスラエルの子らにみことばを送り、イエス・キリストによって平和の福音を宣べ伝えられました。このイエス・キリストはすべての人の主です。

わかりますか？ ペテロは、これはユダヤ人にとって良い知らせだと言いました。ペテロは、神の異邦人のための救いのご計画を想像できません。すぐにペテロは衝撃を受けます。37節、

一使徒 10 : 37 ー

あなたがたは、ヨハネが宣べ伝えたバプテスマの後、ガリラヤから始まって、ユダヤ全土に起こった事柄をご存じです。

一使徒 10 : 38 ー

それは、ナザレのイエスのことです。神はこのイエスに聖霊と力によって油を注がれました。イエスは巡り歩いて良いわざを行い、悪魔に虐げられている人たちをみな癒やされました。それは神がイエスとともにおられたからです。

一使徒 10 : 39 ー

私たちは、イエスがユダヤ人の地とエルサレムで行われた、すべてのことの証人です。人々はこのイエスを木にかけて殺しましたが、

一使徒 10 : 40 ー

神はこの方を三日目によみがえらせ、現れさせてくださいました。

一使徒 10 : 41 ー

民全体にではなく、神によって前もって選ばれた証人である私たちに現れたのです。私たちは、イエスが死者の中からよみがえられた後、一緒に食べたり飲んだりしました。

一使徒 10 : 42 ー

そしてイエスは、ご自分が、生きている者と死んだ者のさばき主として神が定めた方であることを、人々に宣べ伝え、証しするように、私たちに命じられました。

一使徒 10 : 43 ー

預言者たちもみなイエスについて、この方を信じる者はだれでも、その名によって罪の赦しを受けられると、証ししています。」

一使徒 10 : 44 ー

ペテロがなおもこれらのことを話し続けていると、みことばを聞いていたすべての人々に、聖霊が下った。もう一度読みます。

一使徒 10 : 45 ー

割礼を受けている信者で、ペテロと一緒に来た人たちは、異邦人にも聖霊の賜物が注がれたことに驚いた。

一使徒 10 : 46 ー

彼らが異言を語り、神を賛美するのを聞いたからである。するとペテロは言った。

今、ペテロにはすべてが明らかになっていきます。神の救いはユダヤ人のためだけでなく、異邦人のためでもあります。ペテロは、主がこの日をどのように演出されたかに驚きます。ペテロは考えます。なぜ神は今日、私をこの異邦人のところに導かれたのか？ ペテロは何を言うつもりだったのでしょうか？ 何も計画していませんでした。ペテロのユダヤ的な考え方は、救いはユダヤ人だけのものだと言いました。しかし、神は神の愛と恵みは全人類のためであることをペテロに示されました。コルネリウスとその家族、友人たちは信じました。聖霊が自分たちの上に臨まれたことを信じ、救われました。

一使徒 10 : 47 ー

「この人たちが水でバプテスマを受けるのを、だれが妨げることができるでしょうか。私たちと同じように聖霊を受けたのですから。」

一使徒 10 : 48 ー

ペテロはコルネリウスたちに命じてイエス・キリストの名によってバプテスマを受けさせた。それから、彼らはペテロに願って、何日か滞在してもらった。

この瞬間もまた、ペテロは聖霊の到来に驚きました。ペテロは以前、聖霊の到来、聖霊が臨まれるのを見たことがあります。それは五旬節の日、屋上の部屋でのことでした。炎のような舌が使徒たちの周りに分かれて現れ、彼らは御霊が語らせるままに、他国の色々なことばで話し始めました。(使徒 2 : 3-4 参照)

ここで異邦人についても、同じことが起こりました。聖霊は異邦人に臨まれました。ローマの兵士とその家族、友人たちが救われました。ユダヤ人の目には、これは冒涇と映りました。「異邦人が天国に入るはずがない。」ユダヤ人は、アブラハムが異邦人であることを忘れていました。アブラハムは神を信じ、義とされ、救われました。この箇所は「ガラテヤ人への手紙」1章と2章です。パウロは、イエスとともにいた使徒たちに会いました。使徒たちはパウロに同意しました。使徒たちの福音のメッセージはパウロと完全に一致し、神がパウロを使徒として召された証拠でした。イエス・キリストを信じる信仰だけで、あなたは救われるのです。ですから、人間は、救いのテーブルに何も持ってくることはできません。救いに関する人間の努力は、不潔な衣のようなものです。(イザヤ 64:6 参照)

神はそれを受け入れません。あなたは御子イエス・キリストを受け入れねばなりません。ですから、エルサレムの教会指導者たちはパウロを受け入れました。彼らはパウロが使徒であることを受け入れました。彼らはその話を聞きました。読んだばかりですが、「使徒の働き 10 章」のペテロとコルネリウス一家との出会いです。パウロも使徒たちも同じように神と出会いました。この礼拝堂(聖域)にいる私たちも、オンラインの皆さんもそうです。かつては盲目でしたが、今は見えます。かつて私たちは迷っていましたが、今は見つけました。私たちの主、救い主とされるイエス・キリストに見つけてもらいました。主よ、ありがとうございます。4 1 節です。ごめんなさい。ここで、福音を伝えたいのです。「ローマ人への手紙」10 章 13 節が語ります。

一ローマ 10:13 ー

「主の御名を呼び求める者はみな救われる。」

この礼拝堂(聖域)におられる方、オンラインの方で、イエスをあなたの人生に来てくださるよう求めたことがないのであれば、あなたが救われるよう、イエスを受け入れるよう祈りによって導きたいのです。神はあなたの人生を変えられます。主はあなたを封印されます。つまり、あなたは新しい所有者の下になります。主があなたの人生を祝福されます。困難がないわけではありません。断言します。しかし、今までに味わったことのないような喜びがあなたの心に来ます。

「だれでもキリストのうちにあるなら、その人は新しく造られた者です。古いものは過ぎ去って、見よ、すべてが新しくなりました。」(II コリント 5 : 17)

ですから今、あなたがイエスを主、救い主として受け入れたいなら、私の後に続いて祈ってください。簡単に祈ります。私は 24 年前にこの祈りをしました。私をこの祈りに導いた男性はこう言いました。「レイトゥ、」私は彼に尋ねました。どうすれば救われるのかと。彼は言いました。

「レイトゥ、ただ神にお願いしなさい。でも、神にお願いするときは、ただ誠実に。神はご存知です。」

こうして 23 年後、アルコール依存症患者が牧師になりました。アーメン。会衆：アーメン！

ですから、再び、もしあなたがイエスを主、救い主として受け入れたいなら、新しい人生を望むなら、私の後に繰り返してください。頭を下げ、祈りましょう。

天のお父様、あなたの御子イエスを私の罪のために十字架で死なせ、信仰によって、あなたが私たちの救いのために選ばれたご方法で、私たちが救われることを感謝します。私たちは新しいいのちを手に入れることができます。私たちは、地上での時が終わったとき、天国にいれるというあなたからの約束をいただけるのです。イエスの御名によって、アーメン。

あなたが、この礼拝堂（聖域）で、オンラインで、その祈りを本気で祈ったなら、私たちは天国であなたに会えるでしょう！

ー拍手喝采ー

カポノ、上がってきてください。

天のお父様、私たちは今日、あなたの御座の前に参ります。ここだけでなく世界中で、あなたが福音の前進のためになさっていることに感謝します。戦って来たのに、あなたに導かれた人々を主よ、あなたに感謝します。何があろうと、結果は勝利でした。福音は広まり、多くの人が救われます。私たちはあなたを愛します。あなたを礼拝します。主よ、私たちは決して忘れません。私たちの罪が十字架刑を生じさせたことを。あなたは御子を遣わさなければなりません。それがあなたが私たちを救うために選ばれたご方法でした。イエスよ、私たちがあなたに与えた痛みと恥辱をお赦しください。聖霊よ、私たちの人生を導かれ、教えられることを感謝します。「第二コリント人への手紙 3 章 18 節」にあるように、あなたは私たちを、栄光から栄光へと変えていかれます。私たち自身ではなく、イエスよ、あなたのようになるために。

主よ、私たちはあなたを愛し、あなたを礼拝します。あなたにすべての賛美を捧げます。イエスの御名によって、アーメン。

---

メッセージ by JD Farag 牧師カルバリーチャペルカネオヘ

<http://www.calvarychapelkaneohe.com/>

Calvary Chapel Kaneohe 47-525 Kamehameha Hwy. Kaneohe, Hawaii

筆記 hukuinn7